

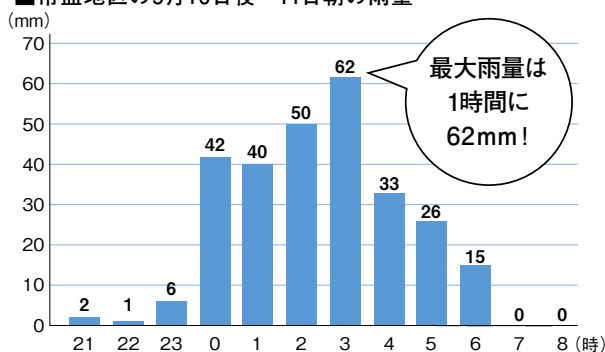
札幌を襲った 大雨を振り返る

9月11日は、数十年に一度の雨が降ると見込まれるときに与えられる「大雨特別警報」が道内で初めて発表されるほど、すさまじい雨でした。市では33年ぶりとなる避難勧告を6つの区、約78万人に発令。緊迫した状況でした。

過去最大級の 大雨が短時間に

9月11日、0時から7時までに南区常盤で計測された雨量は268mm。これだけの雨量は、市では過去に例が無いほどのものでした。住民の少ない山間部に雨が集中したため、人的な被害はありませんでしたが、住宅への浸水などを引き起こしました。

■常盤地区の9月10日夜～11日朝の雨量



■市内の主な被害

床上浸水	7戸
床下浸水	2戸
住宅一部損壊	1戸
道路冠水	98カ所
土砂崩れ	9カ所
河川氾濫など	40カ所

実際に避難した方が語る大雨の恐怖



**鳴り止まない雷鳴と
増水する川に
恐怖しさを感じました**

おおもり ようこ
大森 陽子さん

南区石山東地区、真駒内川沿いの一戸建て住宅に居住。川が氾濫する危険を感じて、石山東小学校に避難した。

9月11日未明からのたたきつけるような雨の音や、激しく光る雷、家の脇を流れる真駒内川の轟音で、ほとんど寝られませんでした。午前3時ごろラジオで避難勧告の発令を知り、さらに不安が募りました。

「川が氾濫するのでは」と身の危険を感じ、夜明けを待って避難所になっている小学校に向かいました。そのとき、川の水は茶色く濁り、堤防から今にもあふれ出るように見えたことを覚えています。



この日、市内156カ所に避難所を開設。479人が身を寄せた
(写真は南区常盤小学校)

小学校までは歩いて12分ほど。鳴り止まない雷と雨の中、食料などを持って歩く道のりはとても長く感じられました。

避難所に着いたとき、すでに10人ほどの人がいたように思います。幸い、わが家の周辺で川の氾濫はありませんでしたが、今後も同規模の大雨が降るかもしれません。命を守るために、災害がもたらす危険を知り、安全に避難する方法を考えておかなければと、あらためて感じています。

9月11日の大雨で 見えてきた課題

市は大雨警報が出た時点で警戒体制をとり、速やかに避難勧告を発令することで、皆さんに危険をいち早くお知らせするとともに、人的被害の防止に努めました。結果、死者やけが人は出ませんでした。開設が遅れた避難所が複数あったことなど、課題も残りました。市は今回の大雨を受け、災害の専門家の意見を聞きながら課題を検証し、非常時により適切な対応が取れるよう災害対策を強化していきます。